

産兒制限に對して反對論がある、宗教的・道德的立場から反對する産兒制限は何か悪いこととして居る様に反對するのである、一昨年北海道で産兒制限問題の講演をやつた、その際聴衆は千五百名位あつた、その時に聴衆に産兒制限は決して悪いものではないといふ事を強調しその方法を知りたいならば早速自分の所に手紙を出したさいと呉々もいふたから歸京すればすぐ二三百位の手紙がくるだらうと思つて居つたが仲々やつてこない、五六ヶ月たつてポツポツやつてきた、全部で百通程きた、百通の手紙の中に幾度か手紙を出し度いと思つたが躊躇致しましてといふ様な文句が随分あつた、如何程いふても産兒制限は何等か悪い様に考へて居るらしい、夫婦が共同生活して子供を生まないのは虫のよい話だ、不都合な話である卑法であるといふ人が随分ある、これは途程間違つて居る、結婚の目的は子孫繼續と性欲満足である、人間が進歩すれば性欲も進化する、戀愛は下等の動物にはない、この頃戀愛至上主義といふものが流行